



# 法華宗信報



昭和34年二葉山町 本因寺五百遠忌法事

昭和37年 新ひだか町 久遠寺  
▼門祖日隆大聖入五百遠忌



平成30年テーマ

つむぐ  
いのち



- ご挨拶／興隆学林専門学校 学林長 大平宏龍
- 寺院の歴史／俱知安町 本因寺～後編～
- 戦後寺院設立マップ&歴史
- コラム／私の住職日記
- 連載／編集員のおすすめ  
北海道の観光スポット～旭川～

157

平成30年10月1日  
発行 法華宗宗務院

# 宗祖日蓮聖人御会式

興隆学林専門学校 学林長

## 大平宏龍



御会式とは、宗祖日蓮聖人の御命日（旧暦十月十三日）を期してつとめる法要ですが、親しみをこめてお祖師様（おそつさん）ともお呼びするように、日蓮聖人を身近に感じ、その教えと、たびたび死の危険にありながら人々の幸せの為に活動された御生涯に感謝し、心新たに自分も信心を実践しようとする機会です。

お会式は一年に一回ですが、どこでも以前は宗祖の月命日に御講といつて、何軒か何十軒かの家々が当番で自宅を会場に、みんなで法華経をよみ、お題目を唱えたあと、

村の灯もやがて消えなむ月光にしたか  
濡れてわが寺はある『晩秋挽歌』より  
は、これを活写して余韻燐々です。

御信者どうしの御講では、当番の家の子供まで一緒にお題目を唱えます。そこでは家族の絆が養われ、幼い子への精神教育も自然に行われました。しかしいま、このような場はいろいろな事情で本当に少なくなりました。

そこで望まれるのは、各寺院で行われる御会式への家族全員での参加です。

法華経というお經は、南無妙法蓮華経と唱えれば、男女平等に誰でも成仏できるお經です。だから、あの世のことは法華経にまかせて、与えられた自分の人生を、しつ

よもやま話に時を過したもので、今も続く私の方の御講では、当番の家の人たちが太鼓をたたく習慣で、よく太鼓を習いに来ます。子供でも上手にたたけると本当に嬉しそうです。

この祖師講は、むろん寺でも行います。旧の十三日は夜道が明るく、仕事を終えた後に集まりやすかつたこともありました。福島泰樹上人の絶唱



かり生き抜きましょうと背中を押してくれます。

法華経に基づく日蓮聖人の教えによつて、多くの人々が力づけられ鼓舞されて、しつかり人生を生きてこられました。又、同時に法華経の教えによつて、日蓮聖人は亡き



四国より北海道比布町へ移住されたお檀家さんの葬儀

人を供養し、亡き人と共に生きることの大切さも説かれました。大震災のたびに、回向供養の重要性が言われる時は御承知のことでしょう。

情報技術革命は、便利さの反面、虚構の人間関係や、たとえばネットゲームにみられる精神病理傾向など負の面が強く注意されています。もはや元には戻れない現実ではあります。結局、自分のことは自ら守るしかありません。寺での御会式などで、ひととき同信の人と共にお題目を高唱することは精神的にも肉体的にも、真の自分を取り戻す絶好の機会です。

法華宗北海道教区の各寺のお会式は、お坊さん達が車を連ねて移動し、次々とつとめると伺いました。大変だなと思うと共に、旅情に重ねてのお会式を想像したことでした。

さて、法華経の思想は「一切衆生本来ほさつ」です。私共の信心が、これから地獄人の共通にめざすべき道に基くことを、ぜひ、しっかりと心に留めて下さればと存じます。

合掌

# 法華宗 北海道寺院紹介

## 「本因寺」ほんいんじ

### 後編

#### ■前編のあらすじ

北海道の日本海側後志地方の俱知安町にある「本因寺」は、開基上人渡辺日慧によって創立された。渡辺伊平師との法論の末に法華宗の僧となつた日慧上人は、本門八品の教義のもと、北海道内で教線を拓げられた。

#### 俱知安の開拓

明治期の俱知安は未開拓の地であり、この地に初めて調査が入ったのは、明治二十二年のことである。この年、北海道庁殖民課によつて殖民地選定のための調査、測定が行われる。そ



御題目石碑

#### 新本堂建立に至るまで

日慧上人が北海道布教員として布教所の設立を許可されると、明治三十六年に俱知安村市街地一条通三丁目二番地（現在の南七条東一丁目）に本門法華宗本能寺本興寺出張説教所を設立する。その後の明治三十八年に寺院建立に至る。昭和時代に入ると開基日慧上人に続き昭和七年

の結果「このクッチャン原野は、林地は農業に、丘陵は放牧に適す」と開拓に適していると評価された。第一次移住者が入つたのは、明治二十五のこと。当時の俱知安の状況を「クッチャン原野見分」に見ると、「樹木の沢山なることまた夥し。坂を上り高所に至れば、後志国と胆振国との境界あり。これより上は一体の高原。この高原の中央に至れば積雪の上樹木散々恰も舞子の浜に行くが如し。特に右方羊蹄山を望み、左方は連山を眺む。眺望絶佳なる所に蝦夷松二本相比びて枝を垂れ葉を茂り、その様見るべし。羊蹄山の麓一面の広原、即ち後志原野の一部、クッチャン原野を眼前に見る。茫茫たる原野、樹木鬱蒼、快絶実に一同一驚を喫せり」

と書かれて、また冬期間の積雪は二メートル以上にもなるとの調査報告があり、このような環境の中で俱知安の開拓は始まるのである。

現在の俱知安町は、羊蹄山やニセコ連峰に閉まれた自然豊かな地を生かし、夏季はラフトティングや登山、冬季は豊富な降雪量や雪質の良さによって近郊のスキー場が賑わい、世界有数の観光地として注目を浴びている。

第六世俊幸上人は明治三十二年、日慧上人の四男として生まれる。日慧上人の徒弟となり大正三年に得度してからは、北海道内各所において布教に努めた後に本因寺に戻り、担任教師



新本堂・旧庫裡イラスト画



新本堂周辺



新本堂・新庫裡

それを立証するように俊幸上人の活動を見ると、徒弟の育成に力を注ぎ、その数は五十二名になる。例を挙げると細俊學師（津別妙法寺開山）、高橋俊瑞師（七飯光明寺開基）、谷俊哲師（有珠上行寺開基）、戸妙宣師（余市信行寺開基）、藤本俊雄師（札幌本顯寺開基）、山田妙洋師（妙唱教会開基）等、数多くの徒弟の方々は道内各地に寺院建立し、布教に努めていく。

日晴上人は昭和期の北海道に於いて、長年に亘り教区の先頭に立ち、北海道内の宗門を牽引し続けてきた。現在の北海道教区の土台を作り、発展の一端を担い、宗門の為に尽力したことが

### 法華経行者としての信仰・継承

俊幸上人の後に現住職である第七世渡辺俊岳上人が住職となり、本因寺開創百年を迎えたころ、建てられてから約七十年が経つた旧本堂は、雪の重さを支え続けた影響で、梁が落ちてしまつたり、軒先が折れ曲がってしまうようになり再建の声があがつた。檀信徒の厚い力添えがあり、平成十三年の暮れに新本堂建立。平成十八年に庫裡客殿再建の完成をみる。平成十八年十月二十二日に新本堂・庫裡客殿の落慶法要が、大本山本興寺御賛首有原日龍猊下（当時）を導師としてお迎えし厳修された。

並びに住職となる。そして俊幸上人の代の昭和十六年に現在地（南三条西一丁目十番地）に移転し、寺院建立。昭和二十一年、寺号公称し振

振山本因寺となる。この時の本堂は、昭和九年にあった兩館大火災の犠牲者供養のための慰靈堂を、この地に移転して作られたものである。

俊幸上人の後には、現在の本堂は、雪の重さを支え続けた影響で、梁が落ちてしまつたり、軒先が折れ曲がってしまうようになり再建の声があがつた。檀信徒の厚い力添えがあり、平成十三年の暮れに新本堂建立。平成十八年に庫裡客殿再建の完成をみる。平成十八年十月二十二日に新本堂・庫裡客殿の落慶法要が、大本山本興寺御賛首有原日龍猊下（当時）を導師としてお迎えし厳修された。



本因寺堂内



日懸書「我等此衆生」

※本因寺開基渡辺日晴上人手記「隨白意」より抜粋  
参考文献「俱知安町年表」「無上通」昭和三十六年五月  
月号・昭和三十七年六月号

何える。日蓮大聖人、日蓮聖人から続く法燈は、この広い北海道の地において各所に灯され、今もなお相続されている。

# 法華宗

## 北海道開教への道のり～戦後～

昨年の法華宗信報で戦前までの北海道教区寺院の発展をご紹介いたしました。このたびは戦後の寺院創設について、ご紹介いたします。

### [戦後の法華宗寺院の発展]

昭和 20 年 8 月 15 日、日本は敗戦の日を迎え、国民の生活は大きく変化した。それに伴い寺院も農地改革や宗教法人法の施行などにより、大きく状況が変わった。また、法華宗僧侶の布教と信徒の協力により、戦後に多くの寺院・教会が設立された。



### 函館地区

- ①光明寺 七飯町 創立昭和 33 年
- ②妙幸寺 函館市 創立昭和 56 年

### 日高地区

- ③隆法寺 新ひだか町 創立昭和 51 年

### 道南地区

- ④感應寺 豊浦町 創立昭和 14 年（戦前創立）
- ⑤妙徳寺 室蘭市 創立昭和 22 年
- ⑥上行寺 伊達市 創立昭和 33 年
- ⑦蓮隆教会 洞爺湖町 創立平成 27 年

### 道央地区

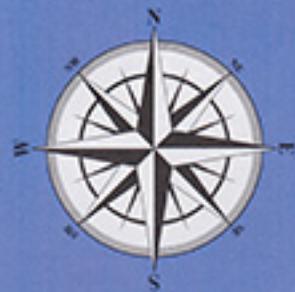
- ⑧本願寺 札幌市 創立昭和 33 年
- ⑨妙感院教会 札幌市 創立昭和 34 年
- ⑩信行寺 余市町 創立昭和 35 年
- ⑪本誠寺 札幌市 創立昭和 41 年
- ⑫本隆寺 札幌市 創立昭和 46 年

### 空知地区

- ⑬妙隆寺 滝川市 創立昭和 59 年
- ⑭三川教会 由仁町 創立不明 平成 17 年再開

### 道東地区

- ⑮妙本寺 銚路市 創立明治 18 年（戦前設立）
- ⑯立正寺 北見市常呂町 創立昭和 30 年
- ⑰妙信寺 銚路市 創立昭和 40 年

稚内市  
利尻島  
礼文島

宗谷支厅

留萌支厅

网走支厅

北见市

网走支厅

北见市

⑧⑨  
⑪⑫  
石狩支厅⑩  
余市町

后志支厅

④  
自留町

檜山支厅

①  
北斗市

函馆市

②  
厚别町

七飯町

上ノ国町

林古内町

知内町

松前町

福浦町

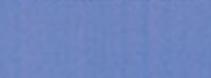
・小岛

函馆市



法華宗信報

7



洞爺湖町



由仁町



新ひだか町

日高支厅

③  
新ひだか町

大根町

庄内町

通河町

様似町

・さりも町

庄尾町

大根町

通河町

・さりも町

庄尾町

大根町

庄内町

通河町

・さりも町

庄尾町

大根町



編集員のおすすめ

## 北海道の観光スポット

当編集員が北海道各地のおすすめスポットを独断と偏見を交えて紹介します。

### 旭川市 カムイコタン

旭川は札幌に次ぐ北海道第二の中核都市となっている。北海道命名以前より、上川アイヌ民族と和人の交流・交易もあり、道内においては歴史的土地区域である。

開拓当時、旭川周辺には、実現しえなかつたが、東京・京都に並び「北京（ほっきょう）構想」があつたとされており、現在でもその名残として、「神楽」「御料」「壇」「千代」等の付く地名が多く残されている。

様々な魅力を兼ねそろえた北の大地旭川には、有名な観光名所は数知れずありますが、中々知られていない一つとして、「カムイコタン」（神の住む場所）があります。ここはアイヌ民族の聖地であり、旭川の景勝地として、今までも神居古潭周辺を流れる石狩川は、人の手がかけられず自然のままに現在も流れています。とても静かで、開拓当時の歴史・北海道指定史跡やその時代の空気を感じることのできるスポットである。

旭川に訪れる際には、歴史に触れていただき、皆様ご自身で、オススメスポットを見つけられてはいかがでしょうか。



神居古潭



露山展望台から見る旭川市

この数年、増え続ける災害は、我々の想像をはるかに超えるほど、甚大なものとなっています。

昨今のニュース報道を見ていますと、自分たちの周りでは「避難するほどの災害は起きないよ」と感じている方が多く、被災者の中にはその考え方反省される方も報道されています。実をいうと私もその一人です。災害の教訓は、その時ばかりのもので一過性で風化しているように感じるのではなくのでしょうか。めまぐるしく変わる情勢にアンテナを張り巡らせ、察していく感性が必要であります。

新元号となる来年が穩やかな時代となることを願うばかりです。

## 「私の住職日記」第5回

### 「宮澤賢治と北海道」

苦小牧妙見寺住職 末澤 隆信

宮澤賢治は生涯に三度、北海道を訪ねました。大正13年5月、教師を勤めていた花巻農学校の修学旅行先が北海道でした。生徒26名を引率し、連絡船で津軽海峡を越え、函館、小樽、札幌を周りました。旅行最後の宿を取ったのが苦小牧。その夜に駅前通りから海岸まで散策し、工場風景や下弦の月が映る太平洋の海原を眺め、「海鳴り」という寂情的な内容の詩を作りました。印象深い土地だったことが伺えます。6年後の昭和5年、その通りに面した土地に「妙見庵」という小さな御堂が建ちました。その主は中嶋啓蓮という尼さん。今に至る妙見寺の前身は、賢治の足跡のそばに生まれたのです。

日本屈指の車窓を誇るJR日高本線は、苦小牧から襟裳岬近くの様似までの太平洋沿岸を走ります。一直線の線路の先、そのまま異次元に行けそうな気がする勇払原野、白鳥が泳ぐ水辺、打ち寄せる波に飲み込まれそうな海沿いの駅、洋式農場のハイカラな建物…。

近年、宮澤賢治学会において、賢治の代表作「銀河鉄道の夜」に描かれる情景は日高本線から見える風景や建物に酷似しているという「日高本線モデル説」が発表されました。苦小牧ではそれを検証する会が結成され、私も参加しています。「天に広がる銀河は遠いように見えても、地上の川に映っている。尊いものは自分のすぐ近くにあるのだ」法華信仰を通して見た世界を描きつけた賢治。そんな美しい物語の源は北海道の地から生まれたと信じています。

苦小牧の地で啓蓮尼が本門八品の道場を開いて間もない昭和8年、賢治は遺言として法華経一千部の出版を実父に託し、その校正に携わったのが当時盛岡に居られた当宗の松本日宗上人でした。賢治、法華宗、北海道、苦小牧。90年ほど前の接点に今の自分がつながっています。その不思議さ有難さに手を合わせずにいられません。



日高本線

## 編集後記

昨今の地震・豪雨災害にて被災されました皆様に深くお見舞い申し上げ、衷心より一日も早い復興をお祈り致します。

この数年、増え続ける災害は、我々の想像をはるかに超えるほど、甚大なものとなっています。